

令和6年度第1回府中市障害者等地域自立支援協議会会議録

■日 時：令和6年6月28日（金）午前10時

■場 所：府中駅北第二庁舎 3階会議室

■出席者：（敬称略）

<委員>

山口真佐子、中川さゆり、長崎昌尚、高橋美佳、原郷史、麻生千恵美、藤田亜弥、
瀬川彩奈、高橋史、西浦智恵、荒畑正子、田中研二、清水孝子、中村美奈子、
中村弘子、椛島剛之

<事務局>

福祉保健部長、福祉保健部次長兼生活福祉課長、障害者福祉課長、
障害者福祉課長補佐兼生活係長、府中市子ども発達支援センター所長、
同センター児童発達支援部門施設長、障害者福祉課主査（4名）、
障害者福祉課事務職員（2名）

■傍聴者：なし

■議事：

1. 前回会議録の確認について 【資料2】
2. 報告事項
 - (1) 運営会議からの報告 【参考資料1】
 - (2) 相談・くらしの部会からの報告 【資料3】
 - (3) 地域移行部会からの報告 【資料4】 【参考資料2】
3. 府中市子ども発達支援センター「はばたき」の運営状況について 【参考資料3】
4. その他

■資料

【事前配布資料】

- 資料1 第9期府中市障害者等地域自立支援協議会委員名簿
資料2 令和5年度第3回府中市障害者等地域自立支援協議会会議録（案）
資料3 令和6年度相談・くらしの部会中間報告

【当日配付資料】

次第

席次表

- 資料4 令和6年度地域移行部会中間報告
参考資料1 令和6年度運営会議中間報告
参考資料2 精神科病院入院患者からの地域移行に関するアンケート結果
参考資料3 府中市子ども発達支援センター令和6年度関係機関職員研修年間予定
府中市子ども発達支援センターリーフレット
府中市子ども発達支援センター児童発達支援部門パンフレット

議事

■事務局

おはようございます。定刻となりましたので会を始めさせていただきます。本日はお忙しい中お集まりいただき、誠にありがとうございます。ただ今より令和6年度第1回府中市障害者等地域自立支援協議会を開会いたします。始めに本日の傍聴の申し出ですが、本日は傍聴希望者はありませんでした。次に本日の委員の出席状況ですが、委員18名中16名のご出席をいただいております。本協議会規則第4条第2項に規定する定足数を満たし、会議が有効に成立しておりますことをご報告いたします。

なお本日の会議ですが、次第に沿って進めさせていただきます。おおむね2時間程度を予定しております。次にお手元の資料のご確認をお願いいたします。事前に郵送しました資料1「第9期府中市障害者等地域自立支援協議会委員名簿」、資料2「令和5年度第3回府中市障害者等地域自立支援協議会会議録(案)」、資料3「令和6年度相談・くらしの部会中間報告」、また本日机上去用意させていただきましたものとして「席次表」、「会議次第」、資料4「令和6年度地域移行部会中間報告」、参考資料1「令和6年度運営会議中間報告」、参考資料2「精神科病院入院患者からの地域移行に関するアンケート結果」、参考資料3「府中市子ども発達支援センターはばたき 令和6年度関係機関職員研修年間予定表」、「府中市子ども発達支援センターはばたき リーフレット」、「児童発達支援部門パンフレット」になります。不足等ございましたら挙手によりお知らせいただければと思います。大丈夫でしょうか。また会議中に何かありましたら職員が行きますので、お手を挙げていただければと思います。それではお手元に配布してございます次第に従いまして進めて参ります。ここからは進行を会長をお願いいたします。よろしくをお願いいたします。

■会長

どうぞよろしくをお願いいたします。早速次第に沿って進めて参ります。

1. 前回会議録の確認について

■会長

1番「前回会議録の確認について」です。事務局から説明をお願いいたします。

■事務局

資料2についてご説明いたします。「令和5年度第3回全体会の会議録（案）」でございます。内容については記載の通りで、この内容でよろしければ通常通り会議録の公開を予定しております。ご確認をよろしくお願いいたします。以上です。

■会長

事前に確認があったかと思いますが、この場で修正や追記等はございますか。

(発言者なし)

■会長

よろしいですか。特にないということですので、事務局におかれましては公開の手続きをよろしくお願いいたします。次の議事に移ってまいります。

2. 報告事項

(1) 運営会議からの報告

■会長

2番「報告事項」ということで初めに「運営会議からの報告」をよろしくお願いいたします。

■委員

運営会議の報告をさせていただきます。本日配布された参考資料1をご覧ください。月に1回運営会議を行っておりまして4月、5月、6月と行いました。5月には年度末の答申の方向性を早めに各部会で取りまとめるということが話し合われています。6月には各部会等の見学ということで東京都相談支援従事者現任研修がございましたが、その一環として受講者が各部会に割り振りのうえ、見学することが確認されました。簡単ではございますが、運営会議の報告としては以上とさせていただきます。

■会長

ありがとうございました。質問なのですが、続いて相談・くらしの部会、地域移行部会からの報告が全て終わったところでお受けしたいと思いますので、ご了承いただきますようよろしくお願いいたします。

(2) 相談・くらしの部会からの報告

■会長

続きまして「相談・くらしの部会からの報告」をよろしく願いいたします。

■委員

おはようございます。では、相談・くらしの部会のここまでの進捗状況について、ご報告させていただきます。資料3をご覧ください。相談・くらしの部会では昨年度3月27日に第7回の部会を行いました。こちらは後ほど説明いたしますが、オンラインで他市の状況をヒアリングしております。また今年度第1回は4月18日にこちらも他市の方に見学に行っております。第2回は5月31日これまでの他市の調査結果のまとめと今後の方向性について話しております。また、今後の予定について日時は未定ですが、市内の施設に1か所ヒアリング、状況の確認をしに行く予定です。そちらは臨時会としての設定でありまして、第3回は7月19日にそれらの調査結果のまとめと答申作成に向けての動きというような予定となっております。それ以降は今のところ日時未定となっております。次に相談・くらしの部会のここまでの進捗状況、取り組みの結果を報告したいと思います。委員の現状については表記の通りとなっております。検討テーマも表記の通りですが、読み上げさせていただきますと「当事者の方がいつまでも地域で暮らしていけること」を検討テーマとし、令和5年度では地域における障害のある方のニーズの把握、課題の整理を行い、6年度はそのニーズに応えるためには何が必要かを明確にし、部会としての答申にまとめるとしてしております。具体的な取り組みの経過といたしましては前回のところから振り返らせていただきますが、令和5年度に行った重症心身障害のある当事者に向けたアンケートの結果から多くの当事者（家族）は自宅や施設等、地域で暮らすことを望んでいるということがアンケートから読み取れました。府中市でも障害当事者の方の選択肢を増やす意味からも住み慣れた地域に施設等を整備する必要があるのではないかとの結果が見られ、近隣の26市（他市25市+府中市）への施設設置状況調査を行い、参考とすることといたしました。ここまですべて前回の3月21日に報告した内容となっております。それ以降のところといたしましては、他市の調査結果から施設建設を積極的に行っている2市に、オンラインでのヒアリングを3月27日に実施しております。その他に直近の令和5年10月に身体障害の方を対象としたグループホームを開所した1市に、4月18日に部会の委員の方達と一緒に見学を伺いまして施設の見学と共にそちらの法人、市担当者からの聞き取りを懇談会形式で実施しました。その後、府中市内にも重度心身障害者を対象としたグループホームが1か所あるが、なぜ他に増えていかないのかというところや建設や運営に課題があるかなどを中心に今後他市への調査はここまでといたしまして、府中市内の実際に運営している施設にお話を伺いに行くということを検討いたしました。他市の状況と府中市内の施設の状況や何か課題があるのかを比較することで、施設増加、建設のための課題と解決に向けた方法を明らかにして、その結果について答申にまとめていこうという方向となっております。裏

面にまいりまして、他2市の調査結果については表記の通りで要点をまとめさせていただきますが、少し特徴的なところといたしまして、2番のグループホーム開設をおこなったH市についてのことを触れさせていただきます。開設までの経緯や補助金の活用状況などは表記の通りになっておりまして、福祉人材の確保という面に関しましては、市主催の就職相談会の開催や近隣の大学等へのアウトリーチを市が実施しております。それから懇談の中で伺った内容で印象的なこととして、学生さんの就職先の選択理由として考えていることは、必ずしも給与の多寡だけではなく、自身のやりがいや休日の確保を基準に考える学生の姿が見られるということでそういったやりがいやワークライフバランスといったところに着目して価値観を持っている、そういったお声もありました。またH市の特徴といたしましては、入所を希望している障害者の「待機者リスト」を作成して状況を把握していることや普段から法人や障害者団体との意見交換や各障害福祉サービス事業所との交流会などから様々な意見を聞き取っている。そうしたことから平時より障害者福祉課職員と市内社会福祉法人等の施設職員との関係が近く、顔の見える関係を築けているため、お互いに相談しやすい環境にあるというような特徴があるということがわかりました。こちらの部会の中でも意見があったのですが、特定の法人と行政が近すぎるというところがあると何か齟齬が生まれる可能性があるのでは、そういったところは注意する必要があるのではないかと意見も部会の中では見られました。これら様々な取り組みによりH市内に必要とされる施設の充足に繋がっているのではないかとということと、こうして他市の状況を把握することは出来たが、先ほど触れさせていただきましたようになぜ同じ都内において府中市は施設が増えていかないのかという疑問が起こりまして、その答えがわからないと答申にまとめて対策を立てるということを提案出来ないのではないかと意見が、部会内で出たことから市内でそういった形でグループホームを運営している施設1か所に「施設が何故増えていかないのか」という意見を伺えればということで、調査を臨時で行うことといたしました。H市の取り組みをいろいろ伺った中からその場に出た意見としては、府中市でも福祉まつりにおいて市内の団体が集まる機会になりますので、そこで「福祉人材相談ブース」などを設けて関心のある方がいらっしゃったら福祉まつりの間ではありますが、ブースに案内をすとかブースを出していない団体であればその法人の資料を渡すとか、人が大勢集まるので人材確保に繋がるような取り組みは出来ないかというような意見が出まして、先日の福祉まつりの実行委員会で委員長であります高橋委員から提言をさせていただいて、感触が良かったというようなお話も聞いておりますので、そういった形で府中市でも取り組みが出来たらなという状況になっております。なお、調査はここまでとし今後はこれら市内外の状況を把握、比較することで市の特性と建設のための課題解決への糸口などをまとめ、将来的に府中市内でも施設建設がなされるよう、以て利用者の選択肢を増やせるよう

に部会からの答申にまとめていきたいと考えております。相談・くらしの部会の取り組みの経過といたしましては以上になります。

■会長

ありがとうございました。

(3) 地域移行部会からの報告

■会長

続きまして地域移行部会について、報告をお願いいたします。

■委員

それでは、地域移行部会の報告をさせていただきます。お手元に配布の資料4に沿って報告をさせていただきます。現状ですが、府中市障害者計画・障害福祉計画（第6期）では障害福祉計画に係る国の指針に基づき、障害のある人の地域生活への移行に関する成果目標を定めているが、現状での達成率は低く、地域移行支援への更なる取り組みが必要であるという現状のもと、昨年度は施設入所者に対して地域移行に関するアンケート調査を実施し、回答から地域移行を希望する入所者数の実態の把握が出来ました。精神科病院からの地域移行対象者については近隣病院に対してアンケート調査の協力依頼を行ったところが4月の段階での現状です。検討に関しましては昨年と変更はございません。「府中市に暮らす人が住み慣れたまちで安心して暮らすことができる地域社会を目指す」ということをテーマに引き続き検討を行っております。取り組みの経過でございますが、本年度の取り組みとしましてはここまで2回のところ、本年度取り組み方についてまず第1回目で検討いたしました。下2つは第2回ですが、アンケート調査を行った入所施設の見学を行い、事務局として同行した基幹相談支援担当の職員はアンケートに回答していただいた入所者から聞き取り調査を行いました。その聞き取り調査から見えた課題、改善策について検討を行いました。検討結果に移ります。今年度取り組む課題についてというところですがいくつか出ております。まず第1に現状を知るために入所施設や精神科病院の見学を行うのはどうかという意見が出されました。(2)としまして当事者の思いを聞き取る機会として昨年度座談会を実施しているのですが、昨年度実施検討をした当事者の座談会を行うのはどうか。昨年度は関係者の座談会を行っているのですが、当事者の座談会も行うのはどうかという意見が昨年度から意見として出されていたのですが、今年度は当事者の座談会を行ってみてはどうかという意見です。(3)昨年度行った座談会を障害種別ごとに実施してみてもどうかという意見も出されました。これは昨年度は精神科病院の関係機関と身体・知的の入所施設の関係機関ということでまとめて行ったのですが、それを別々でやってみ

てはどうかという意見です。(4) アンケートで地域移行をしたいと回答した人に対して掘り下げて検討してみるのはいかがでしょうかというご意見も出されております。この4つを検討いたしまして結論としましては(4)のアンケート結果を掘り下げるということを前提に委員が近隣の施設見学をして、事務局の基幹相談支援担当の職員は見学先の施設で地域移行したいと回答した人に対しての追加の聞き取り調査を行うということになりました。これが今年度の取り組みの課題になります。その見学の結果のところなのですが、部会の回数のところにはカウントせず、裏面の一番下の会議開催状況と内容をご覧いただきたいのですが、4月19日に第1回の部会を行っております。その後、施設見学としまして5月27日に知的障害者の施設見学、6月4日に身体障害者の入所施設の見学を行っております。その後、それをもって第2回目というところですが、2番はその第2回目の内容となります。見学をした委員より知的障害者入所施設、身体障害者入所施設の感想と報告を行いました。ここはさらっとしていますが具体的にはどのような意見が出されたかと申しますと、見学された委員からは施設については肯定的な意見が多かったというふうに思います。立地が良く環境も良かったとか、きちんとその人に合った支援をしていたとか、将来的に利用したい施設だと思ったというような意見も出ました。あとは体験室や体験プログラムの活用が重要というような意見や家族としては終の棲家として入所施設を選んでいるというような感想ですね。そういったものが知的障害の方の施設「なごみ」の方の意見として出ております。身体障害者の施設の感想をとしましては、身体障害者の施設ではあるけれども、軽度の知的障害ですとか精神障害の方が比較的多い印象で、結構動ける自立度の高い人が多くいるという印象を受けた委員の方がいらっしやいました。ここで聞きになられたところで退所理由はほとんどがお亡くなりになってという話でしたとか、あとは地域移行するという時にはお金の管理や夜間の見守りということが必要なのだなというような感想をいただいております。資料の3に参ります。見学に同行した基幹相談支援担当の職員より利用者からの聞き取り調査の報告を行い、以下の課題が抽出されました。これは見学時に同行していただきまして、委員は見学、基幹相談支援担当の職員の方は聞き取り調査ということで分かれて行っていただいたところです。その中で利用者から聞き取った中で出された課題としましては、家族が年を取ってからでは地域移行が難しいという現状。2番目としてせっかく入所出来た施設を出るとするのは家族としては考えにくいというような状況。地域移行後、医療依存度の高い人やてんかん発作のある人のフォローは出来るだろうかというような懸念事項ですね。(4)としましては遠方の施設の場合、地域移行時の家族の支援が得られにくいのではないかとということです。今回は近隣ですので、遠方の施設ではないですが、遠方に置き換えた場合はこういう状況が出てくるのではないかとというようなところですが、色々とお出された中でも一番の課題として出てきたところとしましては、当事者が地域移行をしようとする動機付けが一番の課題であろうということです。地域移行を推進するという入所施設

側の職員や入所するまでに関わっていた相談支援専門員などの意識改革というものが必要になってくるというような課題でした。例えば、この相談支援専門員の意識改革というのは、入所をしてしまうとその時点で地域で関わっていた相談支援専門員から施設の相談支援専門員に引き継ぐパターンが多いというようなところで、入ったらそちらにお任せになってしまう。入所をするタイミングからやはりまた地域に戻ってくるというような意識をきちんと相談支援専門員が意識として持っておく。そうすると今まで地域で担っていた相談支援専門員が施設の方に移ってしまうと、地域とそこで途切れてしまうというようなことになってしまいますので、そうならないような考え方というものをやはり相談支援専門員にも持ってもらった方がよいのではないかとというような意味の意識改革というところです。4番の課題に対する対応策としましてですが、この相談支援専門員の意識改革については、定期的に府中市内は特定の相談支援事業所の連絡会というものを行っておりますので、そちらの連絡会の中で地域移行の勉強会を行ってみてはどうだろうかというような対応ですね。2番としまして 地域移行の体験の場を利用している様子を施設職員や家族、または他の入所者というところが実際に見ることによって、これなら地域移行ができると思ってもらえるようなことが出来たら良いのではないかとのお話です。そのためにはやはり体験の場というものがなくて今全くないというわけではありませんが、近隣であれば2つぐらい、府中市内にも1つ体験の場として活用出来る場所がありそうなのですけれども、やはりそういった場をきちんと活用出来るような場を整備するのが必要であろうというような意見です。5の今後の取り組みについてということなのですが、基幹相談支援担当としては引き続き地域移行を希望した人に対しての訪問をしまして、追加の聞き取り調査というものを継続していただくというところ、もう1つが精神科病院に対するアプローチにつきましては、現在7か所にアンケートを配布して4か所からの回答をもらっているという状況ですので、回答していただいた方に会わせていただけるように病院に働きかけるというようなところと合わせて、アンケートの範囲も広げていくというような取り組みを行う予定となっております。会議の開催状況と内容については記載されている通りで、3回目以降につきましては、これから詳細が定まって行くのですが、基本的にはアンケート調査を行った結果の掘り下げというところを残された回数で行いまして、それを載せて答申にまとめていくような方向性で考えております。地域移行部会としての報告としましては、以上となります。

■会長

ありがとうございました。運営会議、相談・くらしの部会、地域移行部会とそれぞれ部会長の方から報告がございましたが、何かそれぞれに対してご質問ございますか。ご質問のある方、どうぞ挙手でお知らせください。はい、お願いいたします。

■委員

今の報告を聞いていて、知的障害者の入所施設は知的の方が入ってらっしゃっているのと、身体障害者の入所施設とありますけど、実際に入っている方は身体障害者ではないというイメージだったのでしょうか。

■山口会長

お答えをお願いします。

■委員

私が見学に同行出来ていないので、実際に行った事務局の方からすみませんが、ご報告いただければと思います。

■事務局

身体障害者の入所施設につきましては、条件は身体障害があることということになっておりまして、併せて軽度の知的障害があつたりとか、高次脳機能障害をお持ちであつたりとか精神障害も軽度のものをお持ちという方がいらっしゃるということで、基本的には身体障害をお持ちの方が入所する施設となっております。

■高橋委員

なるほど。

■会長

今のご質問はおそらく自立度が非常に高い方が入所施設にいらっしゃるのではなにかということだったと思うのですが、その辺りはいかがでしょうか。

■事務局

失礼いたしました。今回、お会いできた方がお一人だったのですが、身体の自立度は低い方ではありました。意思表示や会話等はしっかりされている方でした。他の入所者のところで職員の方から伺った内容ではご自身で車椅子を操作してお出かける方がいらっしゃるとか、常に施設の扉も開いているので自由に近隣出かけたりするというところではケア度はそれなりに高い方々という状況でした。以上です。

■委員

ありがとうございます。すみません続けて良いですか。こちらにも意見というか、せっかく入所出来た施設を出るとするのは家族としては考えにくいというのは私も当事者家族なので思うのですが、現在の入所施設、精神科病院だと一時的に状

態が悪い時に入院して状態が良くなったら地域に帰ってくる。それも状態が良くなっているのにずっと病院に押し込めておくのはおかしいということで地域移行を進めるというのはすごく理解出来るのですが、例えば知的障害や身体障害の入所施設は親が高齢になって家族でもう支えきれなくなったので、最終的に入所と私達は思っているのに、そもそも地域に戻れる可能性がある人を施設には入れないと思うのですよね。そこでの地域移行というのを一緒に考えてはいけないのではないかなと思うのですけれども、地域移行というのは今だと全部対象に含まれていますよね。それはどうなのだろうかと思ったのですが。

■会長

ありがとうございます。

■委員

ご意見ありがとうございました。正直、私もそういうふうに思っていた節がございました。ただ昨年度を行った座談会の中で入所施設の方とかもご参加いただいたのですが、施設の方から見てもこの人うちじゃないというような方がやはりいらっしゃるそうです。それはどういう経緯で入所になったかというところまではわからないのですが、十分地域で生活出来るであろうというふうに施設の方から見ても思われるような入所者というのが、やはりいらっしゃるところはご意見としていただいた現状があります。ただ流れとしては、やはり地域で暮らすというところが全体の流れとしてはあると思いますので、ご本人がやはり地域で暮らしたいというような意思をお持ちの方に対してはそれが出来るような形で考えていく、その出来るような地域を作っていくというのが大事なのだろうなという、現状の例えばサービスですとかそういったものの中では到底戻せない、地域で暮らせないというような方がもちろん大勢いるのだろうと思うのですが、これからの地域の考え方としてはそういう方でも地域で暮らしていけるような地域作りというところを目指していくというところではないかなと考えています。

■会長

ありがとうございました。他にございますか。お願いいたします。

■委員

先ほどのお話の中で、私としても思うところがありまして、要は施設で入所されている方を地域で見っていくというか、地域での生活を継続するためにはこちらの課題、4番の課題に対する対応策についての相談支援専門員の意識改革だけでは難しいのではないかなというふうに正直思います。福祉だけではなくて不動産業であったり、その貸してくれる人であったり、あとは相談支援専門員だけではなくて、それ

を支える福祉人材、ヘルパーさんであったり、日中活動先であったり、あとはその援護元であったり、その支給決定を出す市役所であったり、地域全体で受け入れるというところの全体の意識改革が必要なのではないかなというふうに思いました。以上です。

■会長

ありがとうございます。

■委員

良いですか。

■会長

はい。お願いいたします。

■委員

私は地域移行を進めてほしいんですけど、その中で障害者が地域で暮らしていくには、府中市で僕みたいな障害者がどうやって暮らせるのか考えていかないと、地域移行といっても難しいかもしれないから、地域づくりというのは大切になってくると思います。この府中で25年暮らしてきて段々とそうやってきて思うことで、よりサポートを必要とできる街づくりというのが大切になってくるかなと、地域移行といっても帰ってきたくなるような街を、どうやって作れるのかなというように考えていかないといけないのかなと思っています。

■会長

ありがとうございます。当事者のお声として障害のある方がどうやって地域で暮らしていけるのか、そういうことを本当に資源の開拓を含めて考えてほしいということで、人材の育成というようなところも先ほど委員から出てまいりましたけれども、地域移行部会においてもそれを実現していくための課題が一体どこにあるのかというところを、丁寧に今いろんな座談会ですとか調査ですとか、そうしたものを積み重ねながら、整理しているというところで大変お疲れ様でございます。社会的入院というものを防いでいきたいということで、当然地域で暮らせるはずの人が施設に入所しているという状況がそのままに放置されているというのは、やはり問題であると、だからそれを解決していくためにどうしていったら良いのかというところを、引き続き相談・くらしの部会においても、地域移行部会においても検討を続けていただきたいというところでもよろしいですか。皆様もつとご意見どんどん出していただきたいのですけれども、今日は本当にいろいろなご意見、当事者の方からも出て良かったと思うのですが、よろしいですか。他にありませんか。

(発言者なし)

■会長

では、引き続きまして検討の方どうぞ続けていっていただきたいと思います。よろしくお願いたします。

3. 府中市子ども発達支援センター「はばたき」の運営状況について

■会長

それでは、次第の3に移らせていただきます。今年度開設されました府中市子供発達支援センターはばたきの運営状況についてです。事務局から説明をよろしくお願いたします。

■事務局

それでは、府中市子ども発達支援センターはばたきの運営状況についてご報告させていただきます。恐れ入りますが口頭でのご報告となりますことをご了承ください。またパンフレット等は参考ですので、後ほどご覧いただければと思います。府中市子供発達支援センターはばたきの整備にあたりましては、第6次府中市総合計画の方策において福祉型児童発達支援センターの設置を目指し、平成30年11月に当初、府中市障害者等地域自立支援協議会からの答申に基づきまして、障害児への療育やその家族に対する支援の充実と相談支援及び障害児を受け入れる施設への援助、助言を行う中核施設の概要を定め、療育事業を更に充実させていく方向性を取りまとめさせていただきました。そして令和2年4月には児童発達支援センターの整備基本計画を策定するとともに、令和3年に策定した府中市障害者計画では改めて当該センターの整備を重点施策に位置付け、取り組んできたところでございます。皆様方の協議が開設の根幹にあるものでございます。誠にありがとうございました。その後、整備を経て令和6年4月1日に無事開設いたしまして、初回相談に応じる総合相談を始め発達相談、教育相談などの相談業務のほか、児童発達支援事業や保育所等訪問支援、市独自事業として実施するグループ支援及び個別支援など計画していた事業につきまして、予定通り開始したところでございます。体制といたしましては総合相談には保健師職を4人配置したほか、昨年度まで教育センターに所属しておりました教育相談及び就学相談の相談員を子供発達支援センターに配置して相談業務を実施しております。また発達支援に関する業務につきましては、昨年度まで子供発達支援センターあゆの子の業務を受諾しておりました府中市社会福祉協議会に引き続き担っていただいております。次に主な事業の実施状況でございますが、5月末時点での数字になりますが、総合相談につきましては電話での相談が252件、対面での相談が13件となっております。次に発達支援にかかる事業につ

いてですが、児童発達支援事業については定員の40人で実施しており、専用のバスでの送迎や給食の提供も行っております。バスの送迎を利用している児童数は33人、のべ給食提供数につきましては947食となっております。また保育所等訪問支援につきましては5人の利用となっているほか、平行通所によるルーム支援につきましては288人の登録で46グループでの実施となっております。このほか中核施設としての役割についてですが、一例としまして参考資料3、関係機関職員研修の予定を示させていただいております。こちらの研修につきましては市内保育所、幼稚園、学童クラブ、児童発達支援事業所などの職員を対象に実施してまいります。報告は以上でございます。

■会長

ありがとうございます。5月末時点での利用者の状況についてご報告を伺いました。何かご質問とかご意見とかありますか。はい。どうぞ。

■委員

常時、見学は出来るのでしょうか。

■事務局

見学につきましては、グループ単位で受付しているのですが、事前にご連絡いただいていたの対応というふうにさせていただいております。あと子供が常時おりますので、相談業務を行っている関係で時間帯によってはご案内出来る箇所が限られてしまうことはご了承ください。

■委員

ありがとうございます。

■会長

ありがとうございました。事前にお電話で連絡をいただいて、そして見学可能ということでございます。他にございますか。

(発言者なし)

■会長

特にありませんか。では、ご報告ありがとうございました。

4. その他

■会長

では最後になります。その他ということで事務局の方に一旦お戻しいたしますの
でよろしく願いいたします。

■事務局

事務局から5点、連絡をさせていただきます。1点目、次回の第2回全体会についてご案内いたします。こちらでは各部会からの中間報告と年度末に行う答申案の途中段階を協議いただく形となります。開催時期は9月下旬から10月上旬を予定しております。時期がまいりましたら書面にてお知らせいたします。2点目、第3回全体会についてご案内いたします。こちらでは各部会からの最終報告と答申案の最終段階をご協議いただく形となります。開催時期は年明け1月下旬頃を予定しております。3点目、専門部会についてご案内いたします。既に各部会を2回ずつ開催しておりますが、年間で6回程度開催を予定しております。今年度は昨年度から始まった第9期自立支援協議会の最終年度ですので、市長へ答申書を提出いたします。答申書の提出は会長、副会長及び事務局で行いまして、時期は来年3月頃を予定しております。4点目、今回の議事録についてです。議事録案が完成次第、委員の皆様にはご連絡させていただきますのでご確認をよろしく願いいたします。5点目につきましては発言を交代させていただきます。

■事務局

引き続きまして、この場での自立支援協議会の話ではないですけれども、東京都の地域自立支援協議会の情報提供ということになるのですけれども、今年度の8月26日に東京都で行われている地域自立支援協議会の交流会を開催する予定にしております。都内全域になりますので、この交流会にどの程度府中市の方から参加出来るかまだ案内がきていないのでわからないところもあるのですが、東京都の方で地域との交流ということで予定している内容については、東京都の地域自立支援協議会の活動の内容ですとか、それから先ほど地域移行の報告もしていただいたところなのですけれども、地域移行に対する事業の進め方とか本人の意向を中心に考えた地域移行の課題ですとか、方向性ですとかそういった内容の交流会を企画しております。またご案内がきましたら皆さんに情報提供させていただいて、どの程度参加できるかわからないですが、出来るだけ参加できる方を募りまして、参加できるような流れで東京都に確認していきたいと思っておりますので、またご案内届きましたらお知らせしたいと思っておりますので、ご承知いただければと思います。開催は8月26日の月曜日になります。以上です。

■会長

ありがとうございました。府中市は非常につながりを感じられるイベントがたくさんあって、この機会にたくさんの方々に参加していただくと、非常に賑やかにな

って活発に他市の方々と交流出来て良いのではないかなというふうに思いました。
ありがとうございました。

ただいま事務局から説明がございましたけれども、令和6年度の第2回の地域自立支援協議会は9月下旬から10月上旬に開催を予定されているということですので、大変な中だとは思いますが皆様ご予定をよろしくお願い申し上げたいと思います。他に何かこの場でご発言、ご希望などございますか。特にありませんか。

(発言者なし)

■会長

無いようですので、これで令和6年度第1回府中市障害者等地域自立支援協議会会議を終了とさせていただきます。本会議へのご協力、誠にありがとうございました。お疲れ様でした。